



No. 6

(関西) 共産主義者 同盟政治機関紙

編集発行人・安達 元 連絡先・京都市上京区馬場今出川 同志社大構内 京都府学連気付

万国のプロレタリアート 団結せよ! 戦闘的労働者・学生は 共産主義者同盟に結集せよ!

二・一五を完全に闘い 三月ストで大増賃上げを闘いとうろろ!

春闘も今や真最中になって来た。公労協労働者は、過去の組合官僚のボス交・裏切りの中でも、また全労働者階級の闘いの先頭に立ち立とうとしている。

各労組の 取組み

全通労働者は、幹部より、第二組合問題をかかえて昨年と同じように闘えないの語を吐き出している。しかし、下部労働者は、相次ぐ労働強化、職制の圧迫の中で、今闘いをくまねば、大増賃上げのみならず、全面的増賃をまねくと主張し、まして闘わない組合に第一も第二の別はないと突きあげた。

このため、当初、表面的には春闘への参加を唱えながら、せいぜい一月末のストといわれていたが、実際には、一月末のストを指定して二・一五統一ストに入ることを決定した。 動労は、昨年の定期大会で民間を追放し、一応専ら同系の執行部を選出した。しかし安全運転闘争で闘う中央の理想は、闘いに入る直前に完全に開かれた。その中で動労労働者は、自分達が主体となつて闘う以外に、展望が開けないことを悟った。春闘前の臨時全国大会では、討論は激発し、公労協中では、闘う名義を守つて敢然と入ることを確認し、当局の増賃をねがへし、鉄道合理化のしわざを一方的に労働者に押しつけて、事故の責任転嫁に闘いをいと

危険な傾向

それは、前述の如く、公労協内部での闘争の高まりがみられる反面、すでに中央段階での妥協のキザンがあることである。 また、二・一五公労協統一行動の設定は、各当局との自主交渉、およびゼロ回答打破の点にある。この場合問題になるのはゼロ回答の内容である。文字通りのゼロと、電通三十四中委承認の通りの人件削減の昨年額一九〇五円を限度とするの見解である。このことは大増賃上げ五千円以上といながらも、実は一九〇〇円から二千円台が、妥協額なのとの疑問がでてくる。更に、一月二十九日・三十日の政府との統一交渉において、政府はゼロ回答はしないと言明しており、これは朝日新聞の報じた如く、七百円位の回答が出された場合となるのか、大きな問題提起になってくるのである。

二・一五段階がかかる状況である。二・一五闘争の設定は、調停段階の圧力化との闘争設定になってしまふ、事実上設定されている。第三段階を認める思想性については、従来より論じられていたが、階級対立の中での中立機関の存在を認める客観物

も、特効的なことは、もう民間幹部が、従来のままの、昨の妥協方式の逃げるよりでは、彼等自身の政治生命すらが保持できない状況にまで来ている。その意味では、日本労働運動の大きな転換点に達していることであろう。

憲法改悪に連なる 日韓国交正常化 池田-朴の国際的団結粉砕!

準備完了の 韓国政情 たしかに、一月二日の政治活動の自由が回復されて以来、韓国軍政権自体もかなりの動揺を経験した。しかし一月末から二月にかけて政争法によるパージの部分的解除(約二二〇人といわれる)と、相次ぐ野党の結成は、大勢としては軍事政権に新憲法制定を促進させることとなり、かつて党結成委員長から身を退くと言明していた前中央情報部長金鐘泌が準備委員長となつて、二月二日、共和党の結成準備大会が開かれた。二五五結成大会、二六日大統領指名大会では、朴正熙を正式に大統領候補に推せんすると伝えられている。これにたいし、野党は大統領候補権をめぐり、完全に分裂し、民政、民主、自由、の三党に分裂した。つまり、韓国に闘い(二)といふわけである。一人一区の完全な政争推

に活動家は全力をあげて闘い、亡の問題に進展するであろう。いつまでも同じ状態での闘争ではない、完全に幹部不信の徹底化の中で、なおかつ賃上げ意欲の切実さの点での闘争であつて、その点の重要性を認識しないことにはだめだ。 我々は、また安保闘争時における大衆が「前衛」をのりこえる状況で、予め察知せねばならない。そのためにこそ、二・一五ストの完全突入の中から、青年共闘委員会の設置と、自主的指導部の確立を起し、更に春闘青年共闘委員会の設置を呼びかけ、各中央機関の突あけを呼びかけた。

「政治的 決」の内容 昨年の八月以降、対韓交渉のなかで生みだされた新構想のものは、(1)対韓援助、対日請求権、対韓請求権は一切、援助額をなかに包括する。(2)共同宣言によって国交を正常化する。たしかに日本は労働者のために低賃金、低開発の市場、そして親方日丸の五億下

日本共産党の 「餅屋運動論」 だがそこで、待っている。またとばかり、日韓会談に戦争不安体制強化(基地反対)反米の愛国的闘争を、と反対し反米の愛国的闘争を、と

池田の人民収奪 政策の挫折目指せ この支配の主体性との対決は、日韓国交回復における反米の収奪の政策が、戦争準備と切り切り、合理化と企業整備の諸政策を実現しつつ、憲法改悪(プロレタリアート)の体制へと連結することの暴露を通じ、会談対池田内閣打倒の闘争を前面におし、組織することによってのみ、真に有効な対決となる。この池田内閣の人民収奪の政策における決定的打撃となる(韓国人民は日本国民からの収奪によるのではなく、自国民の収奪による)。

者階級としては、こうしたことはすべて百も承知の、計算済みののである。「日韓国交回復」は、あくまでも、早期妥協したという朴のアジテーションは、自民党内極右を軸に、対共勢力との関係で日本の独立、中立を主張し、自由陣営を軸に平和と安全を主張するように拡大されている。いわば、日本プロレタリアートにとって日本の独立のために、このことは、世界三本柱としての成長を意味し、そのために日韓国交回復は、OEDD加盟への決定的条件であるのだ。押しつけられ、従属し、せがまれていたから反対、という没階級の餅屋運動論は、このブルジョアジーの確乎たる主体性の主張のまにほとんども無力である。

かつてスターリン批判によって、その国家的威信と国際共産主義運動におけるトップの地位を失った中国は、このように得なかつたとき、中国はこのような官僚主義的、ショーウィニスム的の連対して道徳的マルクス主義として、とくに日本において必要以上にあげられた時期があった。今回の中ソ論争は、公然と中共支持を表明しているイデオロギーは日共共闘論の、かつて中国を支持した左翼論者たちはこそ「現代的」「合理的」マルクス主義の連対に近い姿勢をとっている。

A 資本主義の不均等発展の産物

現在の中ソ論争がそれぞれの共産党のおかれている歴史的条件と国際関係における位置を前提としていることは、ブルジョア評論家の指摘をまともにもみまかざるべきである。とにもかくにも連は経済成長力と軍事力において、世界一・二を競う国家を背景としている。また中国は後進国革命のもつ宿命的な位置——近代工業のなほはたしなめておられるに、国家間の関係において外交・軍事・貿易などの面で著しい不利をうけている。このような事実はいままでもなく、社会主義国家相互の関係としてある日突然生じたものではなく、現代世界において、いまだに支配的な生産様式である資本主義の不均等発展の産物である。資本主義の不均等発展が社会主義革命のさまざまなスタイル、時間的・空間的スレをうみだすという指摘は幾度となくなされたが、このような不均等発展の産物としての革命が逆に現状に対してどのように働きかけ、どのような視点で現実を処理しようか、という問題に対する答えは必ずしも明確にされていなかった。

プロレタリア独裁と先進国革命

コミンテルンはロシアで成功したボリシェヴィキの革命を、早急に西欧において連続的に成功させることを最大の眼目として設立された。それはマルクス第一イン

排し資本主義

中ソ論争の本質

への根底的闘争を

スターが共産主義の普及宣伝を目的として、第二インスターが労働運動の中に社会主義的組織を国際的連帯の紐帯のもとにつくりだされたことを目的としたのに対して、マルクス主義の理想を現実のものにするものとしてのプロレタリア独裁樹立のためにつくりだされたその意味では、もっとも行動を促進する、もっとも党派的なインスターであった。このコミンテルン設立の際には、ロシアで成功した革命は直接にヨーロッパ革命の基地として役立つ、ボリシェヴィキは大きな犠牲を強要された(スペイン革命におけるソ連の参戦遅延、ナチストイツとの友好条約締結など)。

この難問を、社会主義的祖国といふイメージに単色にぬりかえることによつて、あたかもそのような矛盾が存在しないかのように取りつくろった。一国社会主義論の最大の犯罪はまさにこの点にある。従つてこの地点からソ連擁護がソ連共産党とコミンテルン執行委員の間で唯一無二の信条となり、ソ連共産党とコミンテルン執行委員とは完全に癒着し、ソ連国家の利益のために各国の共産主義運動は大きな犠牲を強要された(スペイン革命におけるソ連の参戦遅延、ナチストイツとの友好条約締結など)。

第二次大戦後、この一国社会主義論は「二つの体制論」として水増しされて踏襲された。戦後の帝国主義を戦争と経済的軍事化によつて腐朽し、自動的に自爆すると抱えたスターリンによるソ連連の神聖化は勿論のこと、ブルジョア時代に代る東風西風論も、現代におけるソ連連の諸国の発展がそれ自体一つの完結した体系であるとみる点において同一である。

B 二極分解もたらず図式化

このように一方では個々の民族国家規模における権力奪取によるプロレタリア革命の成功をその民族国家におけるプロレタリア国家の建設に収めさせ、他方ではそのプロレタリア国家の社会主義建設の成功が万国のプロレタリアートとしての何よりのインスターン・ソシアリズムの目標とする図式がおかれる。そしてこのような図式の枠の中で二つの極点がうまれるのである。

期ち、一方の極にはソ連共産党二回大会採択されたソ連共産党の新綱領にみられるように、先進工業国のほとんどもにおいてプロレタリアートの連帯が資本のくびきにまかされていく状況とは別個に地上に共産主義の楽園ができていくという物質主義、現状維持(資本主義とソ連共産党)の方向と国家政策の異なるはたして大國主義、スパートニク主義がうまれる。他方の極には反帝(反米)民族解放闘争によつてインスターン・ソシアリズムが達成されるという情勢は、あらゆる国際関係(外交・軍事・貿易など)において、従来資本主義諸国がとっていた行動様式をプロレタリア国家もまたとらねばならないという強制をもちあはせている。従つて、社会主義といふレッテルを貼るものの

C 国際共産主義の世界革命視点

スターリン治下のコミンテルンにおいて、第二次大戦後の終戦処理において、この原則がゆがめられたことである。ソ連がそのことが国際共産主義運動において強調されねばならない。その努力がなされなければならぬ、生産力および技術とマス・コミュニケーションの発展による錯綜した現代においては、なほそのことが国際共産主義運動に強調されねばならない。

1 春闘を握る主体的諸条件を把握しよう

春闘をめぐり一九六三年の労働運動の展望が語られていた。その中で中心問題の一つとしてあげられた「労働運動の転換」が問題にされた。それは総評主流を中心とするグループにおいて日本の労働組合主義にもとづく春闘大市況上げをめぐる問題であり、反主流(日共)からの総評右より批判として展開されていく。かくて主流は単なる右よりではなく、日本労働組合運動の体質的な弱さ——企業別組合の弱点を克服し、三池の境界をのこせるという意味での労働組合主義の強調、日本の労働組合の体質ともなっている政治的引きまわしの克服を主張し、日共は四中総でこれを経済主義的右より傾化傾向とし日韓闘争を中心とした独自の労働運動の展開を主張するに至り、いまや激しい内部闘争を展開しようとしている。今年度の春闘が第一に大市況上げをめぐる闘争である。その闘争の性格についてはすでにみて来た。そしてそれは日本経済の循環における不況局面、国際的自立化の大勢……(ガット35号国からIMF8条国への移行といった……)によつて資本の攻勢をつよめ、春闘においてもきびしい条件をつくらせてい

2 春闘を握るゲモノーの現状

以上を要約すれば、安保三池以降のゲモノーの喪失……その積極性を見出しはけない。地方選挙のムードづくりに

3 我々は何をなすべきか

我々の責任と自信をもつて、整備されつつあり、よみがえりつつある共産主義者同盟への真面目な、戦闘的な労働者諸君の結果を確かなる。

我々63年春闘に對するプランニング

我々がこの対立に際しても、内容的には日本資本主義の発展……その進展……の無言の資本に掲げながらも運動の指導部は、例えは今後の日東化学etc 首切りを考へると安定資金への敗北をむむを得ない判断し敗北した合化の新日本企業にみられるように巧妙に闘わなければならない。例えはそれは労務の取組の三条件が整えば、偉大な美績……といった姿勢にみられる。そこにはこの闘争の性質上、闘争で局面を開拓する……闘争の過程を基本的規定して行くことを見抜かなければならないのである。

我々には責任と自信をもつて、整備されつつあり、よみがえりつつある共産主義者同盟への真面目な、戦闘的な労働者諸君の結果を確かなる。